


Principal Correspondence

「当校の国際教育のスタンス」



リリーベール小学校では毎週火曜日に全校朝会を行います。発言者は壇上の国旗に一礼して上がるのがルールになっています。国旗を飾っていない場合でも、あると見立てて一礼します。入学式や卒業式では国歌を斉唱しますし、行事のある日には正門のポールに学園旗・国旗・校旗が上がります(次回注意して見てください)。そこで一問一答。

Question	Answer
1 英国のような小学校なのに日本の国旗を掲揚し、国歌を大事にするのですか？インターナショナルに反するような気がしますか？	リリーベールは日本の学校です。国旗に敬意を表さない、国歌を大事にしないインターナショナル(国際)教育はありません。自分の国の国旗を大切に思うからこそ他国の国旗にも敬意を表することができるのです。
2 外国籍の子が少なからずいますがその子たちも歌うのですか？	当然です。日本にいる間は日本の法律で守られ、救急車も使え、人権が保障され、道路などのインフラを使うことができるのですから、日本に敬意は必要です。私も米国に研修した時に毎朝、小学校で米国旗掲揚と米国歌斉唱があるので歌っていました。
3 世界はグローバル社会に向かっていると思われそうですがインターナショナル(国際)教育との違いは？ 	グローバルとは地球規模の国家を超えた課題の話です。現在 SDGs に象徴されるような例えば環境、気候変動、エネルギー、人権、海洋資源等々の課題に取り組むことが重要です。一方インターナショナル(国際)とは国家と国家の交流、協力、平和などの問題で、ウクライナ侵攻をみてもわかる通り国家の存在は人々の幸福と結びついています。グローバル教育の視点と、国家を愛し互いに敬意を表するインターナショナル(国際)教育の両方が必要です。
4 リリーベール小学校ではどんなインターナショナル(国際)教育を狙っていますか？	一言でいえば「人間にはそんなに違いがないのだ」と肌で感じる事と、相反するようですが「文化や価値観はよし悪しではなく、国によってこう違うのだ」と知ることです。オーストラリアにホームステイして「家族の気持ちってどの国も同じなんだ！」と思うと同時に、「オーストラリアではリンゴをかじりながら授業を受けても良いのは(日本ではダメ!)何でだろう？」とマナーや価値観の違いを知ることが国際理解の第一歩です。

Principal Correspondence

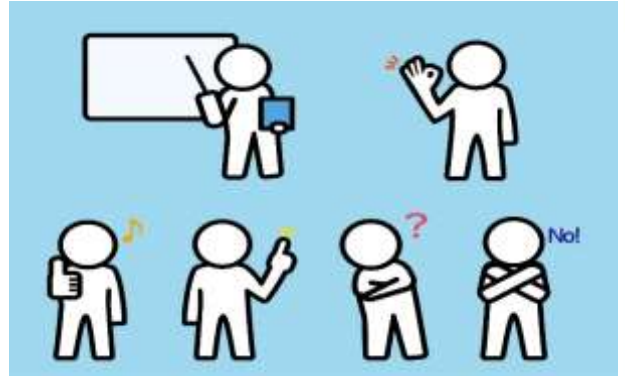
国語・・・癖は身をたすく？

私はいわゆる「まじめな子ども」ではありませんでした…両親ともに共働きでしたので忙しく、家庭は放任主義で、当然子どもの私は何でも楽な方へ、テレビ、漫画とイージーな方へと流れていました(今でも興味の無いことには無頓着で、オフはルーズですが?)。

でも、この行動パターンを少なからず変えたのは小学校時代でした。

1～2年生の先生は国語が得意で、本の世界の面白さを教えてくれました。

3～4年生の時は社会が得意な先生でした(自分を理解してくれ、社会の勉強に何でもチャレンジさせてくれました)。好きなことをコツコツ、ノートにまとめたり、興味のあることに集中したりできるのは、この時に身に着けた癖(習慣)のおかげだと思っています。



癖は身をたすくです。

ところで「子どもはほめて育てる」とよく言いますが、褒めるだけでは頑張れない子を育ててしまいます。癖も身につけません。学校生活を楽しくしようとするあまり、いやな思いをできるだけさせないで、できるだけ叱らないようにと厳しさを排していると、壁にぶつかった時すぐに諦めたり、愚痴ばかり言ったりする人生になってしまうかもしれません。

そういえば、その小学校時代の先生たちは厳しい面も持っていました。怠けると怖いので低学年の時の日記は、徹底して毎日やりました(やらされました)。3～4年は社会の自由研究でした。怠けると怖かったのですが、それがいつしか習熟する力になり、楽しくもなり、書くこと、読むことも億劫にならなくなりました。

これは、自分を理解し「褒める」のではなく「認めて」くれたからだと思っています。

幼少期は良い癖を身に着ける時期です。そのためには、基礎は繰り返し習慣化するまで身に着ける必要があります。そうすれば(ゲームは別として)好きなことにも、とことんのめりこめるのです。

ところで、小学校で最も大事な科目は国語です。この基礎があつてこそ数学や社会や理科は勿論、一見異なるように見えるアスリート能力も、音楽や絵画などのアーティストの能力も伸びていきます。

不思議ですが本当です。

